

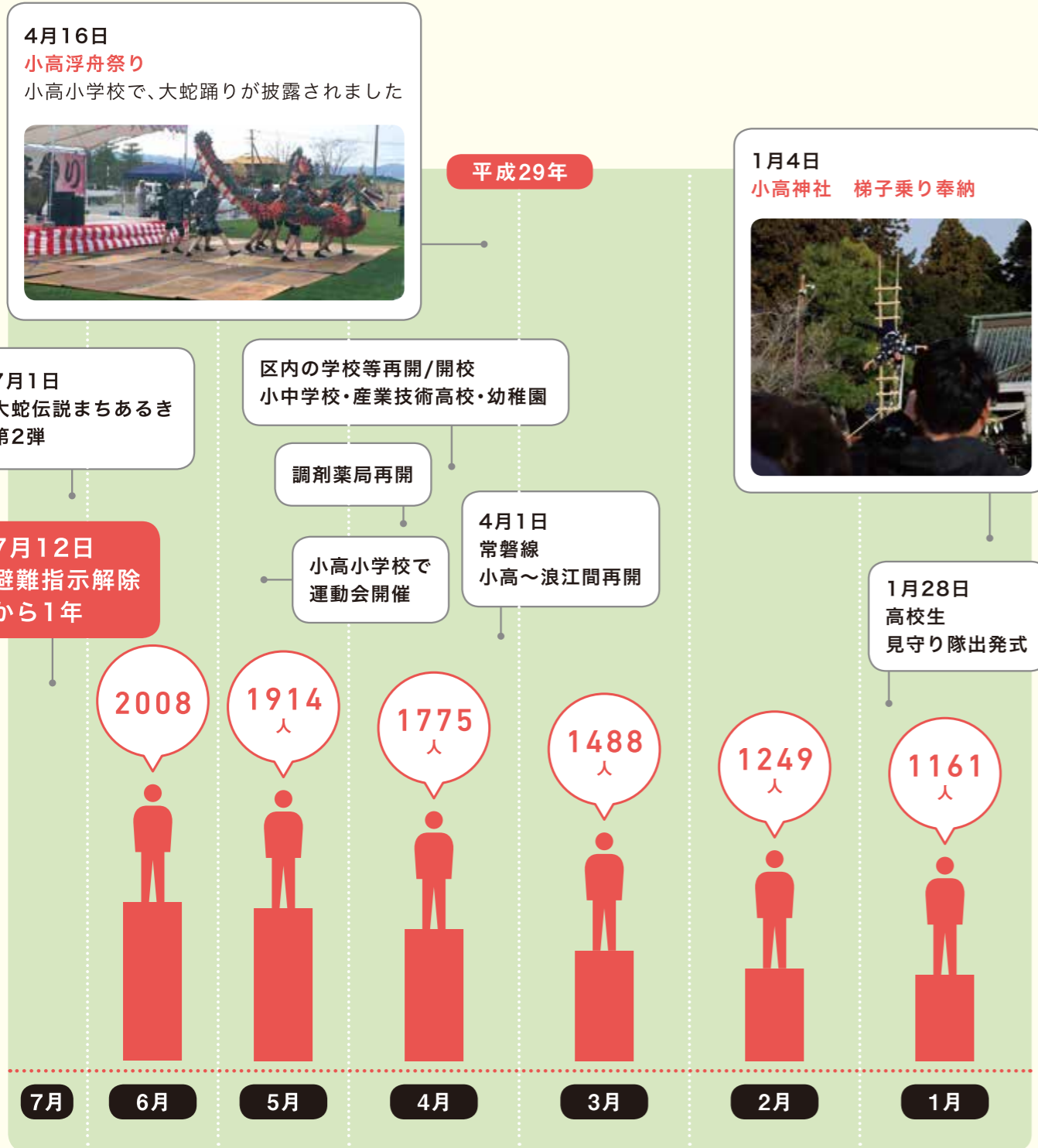
小高志

No.10

2017年8月

これまでの一年、これからの一年

避難指示解除後の一年の軌跡



※各月の小高区内への帰還者数（月末時点）

※店舗・事業所再開状況は小高復興デザインセンターでも確認できます。

平成28年度の1年間をかけ、区役所主催で行われた行政区座談会で、住民の皆様から寄せられた意見から現在の小高区が抱える課題も見えてきました。

多くの行政区で聞かれた課題として、「生活環境の維持・改善」、「除染の進捗状況」、「土地・建物の維持管理」、「有害鳥獣への対応」がありました。

また、帰還されている方が少ない東部地区や西部地区では、「地域コミュニティの維持」や、「行政区の今後」への不安を感じている方が多くいらっしゃいました。

課題も見えてきました

つつ活気が生まれています。農業再開も進んでいます。この中には、栽培した作物を利用し、商品開発にチャレンジする動きもみられます。いくつかの行政区ではサロンが発足し、地域のつながりが少しずつ再生しています。

いろいろな活動・取組みが動き始めています！

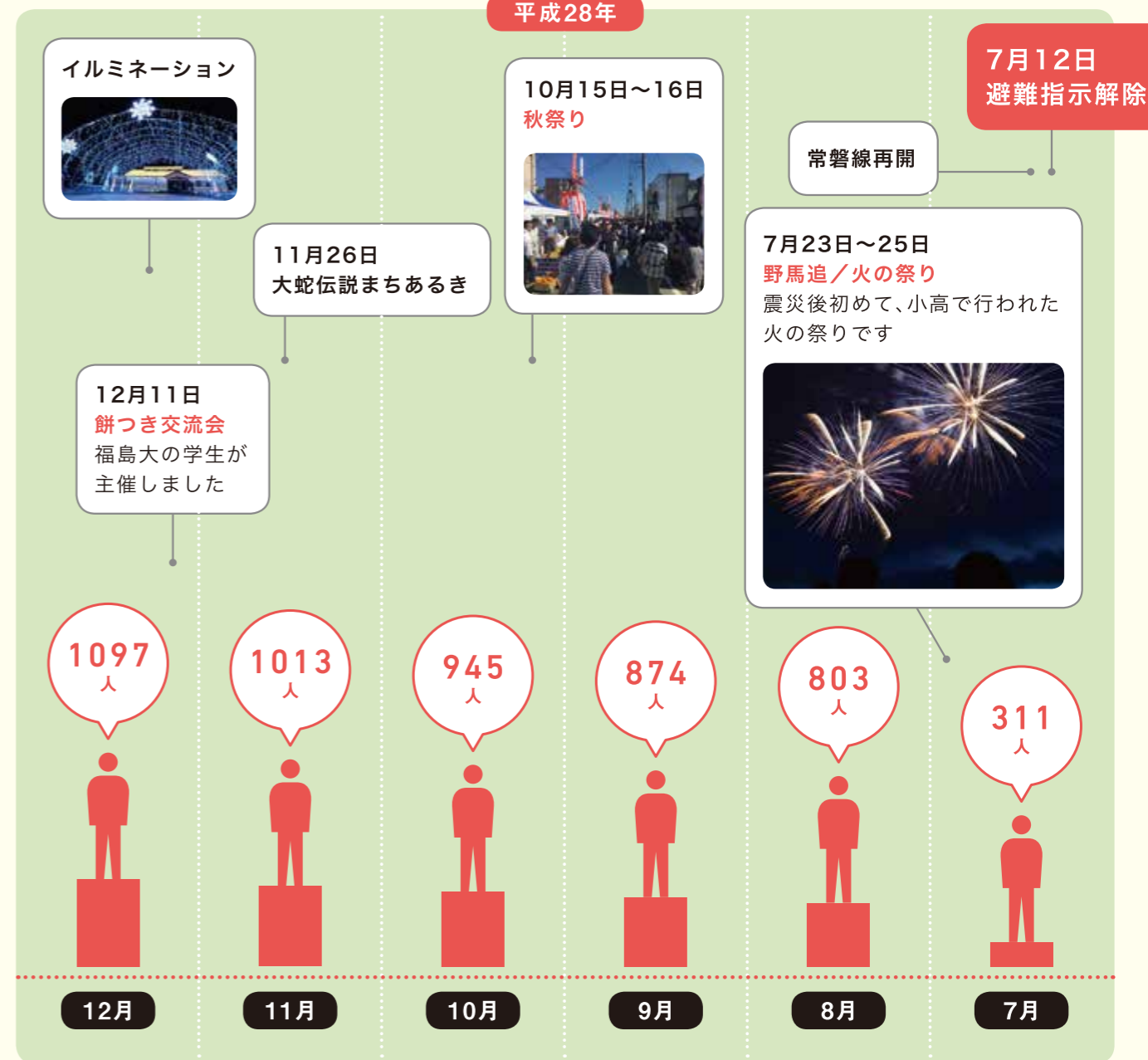
この1年間で、まちなかや各行政区の姿も変化してきています。まちなかを中心として、再開した事業所や店舗が増えており、少しずつ活気が生まれています。

また、少しずつ、住民の皆様が帰還され、6月末現在、小高区内に住居登録している人の約22%に当たる2008人が小高区内に帰還しています。学校が再開した今春は、帰還者の数が特に増えました。帰還できないながらも、もともと暮らしていた土地に通う方もいらっしゃいます。

この1年間、震災以降、休止や別の場所での開催となっていた様々な行事やイベントが、小高で復活しています。

また、少しずつ、住民の皆様が帰還され、6月末現在、小高区内に住居登録している人の約22%に当たる2008人が小高区内に帰還しています。学校が再開した今春は、帰還者の数が特に増えました。帰還できないながらも、もともと暮らしていた土地に通う方もいらっしゃいます。

平成28年7月12日に、帰還困難区域を除いて避難指示が解除され、一年が経過しました。今回は、避難指示解除からこれまでの小高の様子を振り返ります。



LLO (Live Lines ODAKA) 1年間の成長記録！

Live Lines ODAKA (LLO) は小高を活性化させる高校生グループです。原町高校、小高産業技術高校の生徒がメンバーとなっています。平成 28 年 2 月からグループでの活動を始め、様々なことに取り組んできました。LLO の 1 年間の成長の記録をまとめました。

小高や、他の被災地のことを学びました！

小高区の復興に携わる個人や団体の活動を学ぶため、インタビューを行いました。平成 28 年 8 月には、宮城県石巻市・女川町を視察し、他被災地の復興状況を学び、同世代との交流も行いました。



復興に向けた思いをインタビューを通して学びました。



石巻の中高生と互いの活動について議論しました。

小高を活性化させる提案を行いました！

平成 28 年 11 月、これまでの活動もとに学んだことを踏まえて、小高を活性化させるための提案を、市長に対してプレゼンテーションしました。



「人のつながり・交流の創出」「高島家蔵の活用」「通学路の環境」について提案しました。



市長へのプレゼンテーション時の集合写真。

自分たちができることを取り組んでいます！

提案したことのうち、できることから取り組みを始めています。お年寄り世帯への訪問（高校生見守り隊）や、高校への通学路に設置する光るベンチづくりを行っています。野馬追に合わせて、「高島家の蔵」を使ったイベントへも参加しました。



平成 29 年 1 月、高校生見守り隊出発式の様子。



平成 29 年 6 月、光るベンチづくりワークショップ。



高校生からは、「地域を元気にするためにもっと自分から活動していきたい」という声があがっています。今後も、小高の活性化に向けて活動を展開させていく予定です。新年度となり、新しいメンバーも加わりました。これからも、LLO の活動へ、皆様の応援・サポート をよろしくお願いいたします！

まちなかに活気！

まちなかには、小高での生活を支える中心として、少しずつ活気が戻ってきています。飲食店や小売店など、再開や新規開店するお店も増えてきました！ また、復興朝市やマルシェなど、震災後に始まった活動も見られています。



【OMSB (オムスピ)】土曜日曜に駅前、コーヒーショップを開いています。5 月にはマルシェも開催。



双葉屋旅館では、毎週火・木曜のランチに 20 食限定のカレーを 500 円で提供しています。

営農の再開、あちこちで！

小高区内の各地で、米や大豆、野菜などの栽培が行われています。今年は、新しい農業法人設立の動きも見られ、作付けされたお米も販売される予定です。小高産の作物から商品化の試みもされています。



上浦などの水田で、水稻の栽培が行われています。



上耳谷で作った酒米が日本酒になりました！

農地や牧草地の新たな活用を！

農地や牧草地など、震災前のように活用することは簡単ではありません。耕作放棄地となることを防ぎ、地域の活性化に繋げる試みも見られます。例えば、井田川行政区では、オーガニックコットンの栽培、小屋木行政区では、ミョウガ栽培と太陽光発電を両立して行う「ソーラーシェアリング」に取り組んでいます。お花畑にして、景観を良くする動きも見られます。



大富行政区では、牧草地一面にひまわりを植えました。この夏、ひまわり畑をつかった迷路を計画中大そうです！



さくらサロンは、月 2 回程度、小高老人福祉センター等で開催しています。

交流の場づくり

これまで、小高志では、「さくらサロン」や大富行政区での「大富サロンかけの森」の活動を紹介しました。この他にも、行政区や老人会・NPO などの団体がサロンを立ち上げており、いろいろなところで交流の場が生まれています。

浦尻未来検討会が始動！



第1回目の検討会の様子。提案を説明しています。



参加者の方のご厚意でいただいたお昼ご飯を片手に、話はずみしました。(第2回)



浦尻あるきの様子。

平成29年5月21日と6月24日に、第1回および第2回浦尻未来検討会が浦尻公会堂にて開催されました。浦尻未来検討会は、浦尻行政区の将来像やそれを実現するための方策を話し合う場として、大字会での話し合いを経て、地区の住民が中心となって設立したものです。検討会には、行政区長や各組の代議員、農業・漁業の関係の方を中心として、毎回10名以上の住民メンバーの方が参加しています。小高復興デザインセンターは、検討会の運営をサポートしています。また、オプザバーとして、地域の健康づくりを支える保健師さんらにもご参加いただいています。

第1回目の検討会では、センターからの提案をたたき台として、将来の目標像の共有・浦尻行政区が抱える課題や地域づくりのための資源の共有、農地や宅地の利用や維持管理の方針について、議論を行いました。

集落外に住む方と浦尻の繋がりが方等については、いかに実現していくか難しそうという指摘もありました。浦尻の状況に合い、実現できるものにするように、議論を進めていく必要があります。

第2回目の検討会では、特に農地管理の仕組みづくりや、公会堂を中心とした景観づくりについて話しあいました。また、行政区内をあるく「浦尻あるき」を行い、現状の理解・共有を図りました。住民メンバーの方のご厚意で、ほつきめしなども振る舞っていただきました。

今後、9月頃の取りまとめを目指して、月1回程度のペースで検討会を開催していく予定です。浦尻未来検討会にメンバーとして参加を希望される方は、浦尻行政区長さんまでご連絡ください。

また、検討会を開催したときは、浦尻Newsを発行して、浦尻の皆様にお届けします。名簿に不備があり、お届けできない場合がございます。入手を希望される浦尻の方はご二報ください。

小高とかわる 日本大学工学部建築研究会 災害対策研究班

小高には、大学や企業、ボランティア、市民団体など様々な方が、関わりをもち、活動を行っています。

今回は、防災まちづくりに貢献するため、調査に励む日本大学工学部建築研究会災害対策研究班（以下、DRM）の皆さんにお話を伺いました。

小高での活動を教えてください

小高出身のメンバーがいたことがきっかけで、小高の中で専門を活かして貢献できそうなことを考えていました。今後、同じような災害があった際の不安が、帰還の障害になると考え、まちなかの緊急時の避難経路を調査しました。

具体的には、まちなかで出会った住民の方（39名）に、聞き取りしたり、まちなかを歩いたりして、空き家や

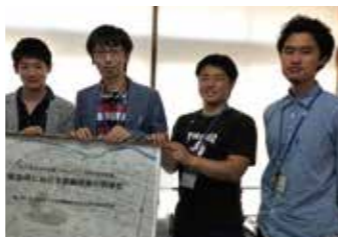
空き地の状況を調査しました。

今回の調査を通して、どんな避難の特徴や防災上の課題がみつけられましたか

津波避難の際、6号線が利用できない場合、どこにどう避難したら良いか分からなかったという住民の方がいきました。避難ルートや危険箇所を明確にして、住民の方が把握することが重要です。また、原子力災害の際、情報が少ない中、避難した方もいて、風向きなどの情報をしっかりと入手して避難を行うべきだったという意見が聞かれました。

成果は、どう活かしていきたいですか

今回は、聞き取りができた人数が多くないですが、さらにデータを蓄積し、浸水想定や地面の揺れやすさなど



成果物をもって記念撮影です。DRMの皆さんの活動成果は、センターでご覧いただけます。お越しの際は、ぜひご覧ください！

日本大学工学部 建築研究会災害対策研究班のホームページもぜひご覧ください！

<http://drm-lab.com/>

の情報を重ね合わせることで、緊急時の状況をシミュレーションできると思っています。住民の皆さんにも見ていただき、災害時のことを考えるきっかけにしたいだけだと思います。

今後の活動について教えてください

災害が発生した際、自分の身を守るためには情報をいかに集められるかが重要となります。

今回の調査で、避難ルート等の情報収集に苦慮したという住民の方がいっぱいありましたので、そういった方々に対して、今回作成した「逃げ地図」を紹介することや、情報収集の手法を伝えることで、小高の防災に貢献したいと考えています。

小高復興デザインセンターと連携した活動

DRMの皆さんには、センターが関わる浦尻行政区における活動に参画していただいています。昨年12月の「歴史の街く浦尻貝塚から始まる新しい交流会」では、行政区の地形模型を作成していただきました（現在も浦尻公会堂に展示中）。また、浦尻未来検討会にもオプザバーとして参加しています。



第1回つながり部会にて、行政、NPOなどの民間組織、ボランティアなど、身近なつながりの構築を実践している方々と話し合いました。担い手不足などの課題がわかりました。



第1回小高の復興に向けた定例会にて、市民一人ひとりがやるべきことをやってみるという自主性を重んじ、失敗してもそこから学んで次につなげるという実践の重要性が共有されました。

上浦の今後を考えるワークショップを開催し、帰還していない方の多くが今の住まいから、土地の維持管理のために通っていること、今の住まいは、小高区内や南相馬市内など上浦から遠くない場合が多いことがわかりました。

11月

災害リスク部会として、多様な専門家をお招きして、外に出ない生活によって糖尿病リスクが高まっていることや放射能汚染への対応を幅広く議論しました。



高校生の市長提案を支援しました。
第2回まちなか部会にて空き地を菜園利用する方向が支持されました。
市民有志や市教育委員会と共同開催で「小高大蛇伝説まちあるき」を行いました。



妙見公園の改修デザインを提案しました。
小高秋祭りには、高校生チームと松月堂さんのコラボ企画による商品開発や出店支援、「小高思ひ出かふえ」開催協力などで参加しました。



10月

小高復興デザインセンターの1年の振り返り、そして2年目へ

2016年7月、復興のための協働の拠点として開所した、小高復興デザインセンターの1年を振り返ります。



避難指示解除直後の7月16日に開所式！を行いました。

高校生の活動支援の一環で、石巻と女川を視察しました。
川房行政区「若者の集い」に参加し、若い世代の故郷への想いを知ることができました。



8月



取り壊しが検討されていた社協会館をセンターメンバーで手入れし使える場所として復活させました。各行政区の方の協力による40年前の建物です。社会福祉協議会の関係者の皆様、ご厚意に感謝します。

9月

第1回まちなか部会にて、空き地を有効に使う方法や歴史的建造物の保全について話し合いました。

2016年7月



解除1年目に、行政区座談会や部会などを通じて収集した課題は膨大でした。様々な方々が、それぞれの持ち場で、そうした課題に対応する取り組みを行っていらっしゃいました。

避難指示解除から2年目へ

解除から2年目を迎えました。

小高復興デザインセンターは、「地域コミュニティの再生」・「協働体制の構築」を通して、小高の復興に貢献したいと考えています。



お祭りや郷土芸能など、地域の文化を維持・再生する動きを通し、行政区の方々がお集まりになり、時を共有するきっかけとなっています。



集落で育てた新鮮野菜を買える朝市で、住民の方同士が気軽に言葉を交わすひとときが生まれています。



公会堂や集落センターを使い、サロンが立ち上がっています。いくつかの行政区では交流の場づくりに留まらず、牧草地の活用や地区の草刈りなど、活動に広がりが見られています。



高校生も積極的にまちの方と関わろうとしています。災害公営住宅の集会室にて、被災以降から現在までの状況を伺いました。

帰還者の方同士がつながり、非・未帰還者の方が故郷とつながりを持ち、小高に関心のある方も様々に関わる機会に富む小高を取り戻しましょう。

まちなかや集落部の行政区がそれぞれ持っている資源や課題を調査・把握し、地域の方々と一緒に、取り組んでまいります。

こうした実践の過程から、有効な協働の形を検討し、次につながる形にしていきます。

第2回つながり部会にて、人がつながる場づくりの重要性が再認識され、多様な場の創出が必要であることが共有されました。

「さくらサロン」の立ち上げを支援しました。第1回では、サロンの名前や予定など、和やかに話し合いました。



12月

第2回定例会にて、各部会の活動を報告し、広く議論する場を継続すべきとの指摘をいただきました。

「歴史の街 浦尻貝塚から始まる新しい交流会」にて調査成果の発表と意見交換をしました。

2017年
1月

地域住民のコミュニティ再生のため災害公営住宅である東町団地にて、菜園づくりがはじまりました。団地内の花壇を活用した菜園です。

月に1度のペースで、東町菜園での活動を行っています。身近な場所に畑ができました！



2月

第1回なりわい部会にて、営農に関連して農産物が売れるという出口があれば耕作のチャンスはあると同時に、担い手不足や耕作放棄地の抑制などの課題があることがわかりました。



3月

仮設小学校の記憶を継承するため、小高区4小学校の仮設校舎の模型を製作しました。



4月

6月

行政区単位での地域再生に取り組んでいます。解除から1年を経て、次にやるべき具体的な実践を検討しています。

5月

「浦尻未来検討会」がスタートしました。ご関心のある浦尻の方、ぜひご連絡ください！

小高大蛇伝説 まちあるき 第2弾を開催!

7月1日(土)、小高生涯学習センター、おだかぶらっとほーむらと協働で開催しました! 約30名の方が参加し、小高の文化財などを巡りました。



菜園づくりのメンバーを募集します!

東町団地の菜園に続き、まちなかの空き地を利用した菜園づくりが始動します。小高復興デザインセンターは、菜園づくりの専門家派遣、広報の作成&配布、道具・苗・タネ・土の準備などをお手伝いします。個人はもちろん、グループでも、菜園づくりに参加いただける方を募集しています。小高のまちなかで、一緒に菜園づくりをしてみませんか?



問い合わせ先: 小高復興デザインセンター TEL: 0244-44-5100

新鮮朝取り野菜で 地域の絆を繋ぐ 復興朝市開催中!



今年度から、つながっぺ南相馬さん主催の朝市が月1回開催されています。

地元農家さんで採れた新鮮な野菜が朝一番で届けられます。場所は、小高駅前通り(小高区本町1丁目18)の「陽だまりサロン紅梅」です。

次回:8月19日(土)AM9:00~開催予定
ぜひ足を運んでみてください!

※野菜は全てモニタリング済み・不検出のものが出荷されています。

小高復興デザインセンター

2016年夏、設立しました。住民・行政をはじめとして、小高とつながりたいみんなが協働し、実践していく場です。

〒979-2124 南相馬市小高区本町2-89 旧社協会館
TEL: 0244-44-5100

Web: <http://td.t.u-tokyo.ac.jp/odaka/>
<https://www.facebook.com/OdakaRC/>